平成20年度 安全委員の活動について

安全委員　三代修治

昨年は、安全委員会（６回）、安全パトロール（夜間含む計５回）、現場代理人安全管理研修会（２回）、出雲分会総会における安全表彰の候補者推薦（事業場２社、個人２名）等の活動を行いました。

安全パトロールの書類関係では、危険な作業の作業手順書や、建設機械の作業計画書などが作成してない等の指摘事項が多く見かけられ、反面　リスクアセスメントを確実に実行している現場もあり評価できるところでした。現場関係では、いまだに、車両、重機にキーの付けっぱなしや、車両の車止めの不備等の軽微なものが多く、事故につながる重大な不備は幸いにもありませんでした。安全意識の周知徹底を図っている現場もあり勉強になるところも有りました。　これから良いところは参考にして、積極的に広めて行きたいと思います。

現場代理人安全管理研修会では、出雲市消防本部より講師を招き、救急救命の指導をしてもらい、応急手当（心肺蘇生、ＡＥＤの使用手順等）の模擬実践を行いました。

現場では、日射病、熱射病、事故等いろいろあると思われます。それに対する応急手当の方法を知っている事で、救急車が到着するまでの間、少しでも救命につながれば良いのではないかと考えます。こういった事故がないのが理想ですが、不幸にも事故が起こった場合、対処法を知っておくのも良いのではないかと思います。

安全表彰では、安全パトロールを行った中から、事業場２社、個人２名（推薦数は、その時の評価による）の優秀な現場を推薦し表彰されました。安全表彰を受けることで事業場、技術者の評価が上がりますので、まず、安全パトロールを受けていただきたいと思います。

パトロールでは、書類の不備や、危険箇所を探しまわるという考え方ではなく、あくまでも指摘がないような現場にしてもらいたいということです。それが無事故無災害になり、表彰にもつながります。事故や災害を起こさないように各現場でも、いろいろ工夫をされていると思います。そのアドバイスとなるようにと考えてもらえれば良いと思います。

今後とも、安全委員の活動と安全パトロールにご理解とご協力をよろしくお願いします。

キーの付けっぱなし

なんでこの間はコーンがないの?

良好であったところ

安全意識の周知徹底

新 任 ご 挨 拶

(社)島根県建設業協会出雲支部
事務局長　小野博己（おのひろき）

このたび、(社)島根県建設業協会出雲支部事務局長を拝命しました小野でございます。私は、昭和50年１月に島根県に採用され、34年余りの県職員生活を終えたばかりです。県では主に土木部の勤務が長く、約３分の２にあたる24年間を土木行政に携わって参りました。県職員になりたてのころの昭和50年代は、オイルショックを背景に、日本経済も高度成長から安定成長へ移行し所得の増加も進み、戦後派世代の「ニューファミリー」による世帯数の増加などから家電製品や自家用車等のモノが大量普及して、豊かさを追求していった古き良き時代のように記憶しております。

その当時は、遅れている島根県内のインフラ整備を進めるために、道路の改良、舗装、河川改良等の公共事業に加え、教育文化活動のための文化施設など公共投資も一定量注ぎ込まれており、県内産業もほぼ順調に伸びていたように思われます。

しかし、バブル経済崩壊後、財政再建の観点から公共事業の大幅な見直しが行われ、更には「骨太の方針」で財政運営・公共投資の見直し等、構造改革が進み公共事業の大幅な削減へとつながってきました。

島根県においても公共工事は平成10年度をピークに毎年減少し、この10年で事業量も半分以下に減少してきております。ここ数年来の公共事業の激減が建設業の経営に大きなダメージを与え、地域経済や雇用にも大きな影響を及ぼしており、大変苦慮しているところです。

島根県では財政再建を進めるにあたり、財政健全化基本方針（平成19年10月）を策定し、公共事業の見直しを進めております。しかしながら、大都市から遠隔地に位置する島根県の発展には、道路等の交通基盤や災害に強いまちづくりを進める必要があり、社会資本整備は避けて通れないものと思います。日進月歩で世の中が変わることはあっても、社会資本整備という建設事業がなくなることはありません。しばらくは、厳しい経済状況が続くものと思われますが、業界の皆様方の知恵と汗が必ずこの状況を克服されるものと確信しております。私もこの業界、並びに建設業協会出雲支部の発展のため微力ながら精一杯頑張っていく所存であります。前任者同様、格別のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

《自己紹介》

◆生年月日
昭和24年10月13日生まれ

◆家　　族
妻（由美子）、犬（キャンディ）

◆趣　　味
犬との散歩、カラオケ

◆出身地
邑智郡美郷町浜原

◆現住所
出雲市稲岡町263－3

犬との散歩　ダックスフンド

編集後記

新聞やテレビでモンスターペアレントや給食費未払い問題などの記事を目にします。

モンスター・ペアレントなどは親の身勝手な都合による学校へのクレームで先生がノイローゼになったり、自殺者まで出ているようです。本当にこんな親がいるのかと耳を疑ってしまうほどひどい内容です。これは都会の話しだけではなく、出雲のような田舎でもいろいろとあるようです。先日も友人から聞いた話しですが、ある中学校の卒業式の日程を自分の住んでいるところの行事と重なるので日程を変えてほしいという親がいたそうです。なぜそのようなむちゃくちゃなことが当たり前のように言えるのでしょうか？このような問題がおこるのはやはり現代の社会に「公共心」が薄れているからだと思います。社会の中で生かされていると気づけば思いやりや感謝の心も芽生えると思います。教育の始まりは家庭からとよく言われます。私も二人の小学生の親であります。偉そうなことを言えるような人間ではないですが子供達にはそのような心を大事にする大切さを教えて行きたいと思っています。また、私たちは公共事業という「公」の仕事に携わっております。仕事をさせて頂く事に感謝し、住民の皆様に喜んでもらえるような仕事ができるように日々、頑張りたいと思います。

平成20年度は支部創立60周年ということで今回の会報は記念特集号と致しました。

昭和23年頃と言えば、私の祖父が大工としてバリバリ仕事をやっていた時で、その数年後に会社を起こしたようです。もちろん当時私の存在は影も形もありませんでしたが、今現在次期世代の後継者として建設業を任っている自分を見ると“時の不思議さ”を感じます。今は大変に厳しい状況ですが、冬の季節が巡って必ず春が訪れるように建設業にもいずれ春が来ることを願ってやみません。

経営改善研究委員　　山　根　　強